

令和 5 年 5 月 20 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00841

研究課題名(和文) 教職課程における振り返りと英語教師としての成長：PDCAサイクルを超えて

研究課題名(英文) Reflection in Initial Teacher Education and Growth as an English Language Teacher: Beyond the PDCA Cycle

研究代表者

浅岡 千利世 (Asaoka, Chitose)

獨協大学・外国語学部・教授

研究者番号：30296793

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は振り返りをツールとした英語教師の専門性の成長の過程を明らかにすべく、質的研究を行なった。その結果、教職課程履修生にとって、自分を支援し問題共有できる仲間や自分とは異なる経験をもつ他者の存在が重要であること、グループ内における自分の役割の変化や教職に対する認識の変化を通して、教育実践の新たな理解を獲得するということが明らかになった。さらに、教育実習などの実践的経験が大きな影響要因であることに加えて、振り返りの共同体への長期的参加が複数の役割や立場の経験を可能にし、そのことがその後の英語教師としての成長にも大きく影響し得るという知見を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)ピアである同じ教職課程履修者とのやり取りを通しての教師の成長という新しい視点の提示、(2)オンラインジャーナル記述、グループ・ディスカッション、インタビューという複数の質的研究手法を組み合わせることによって教職課程履修者の視点や心情などの内面的世界に対する理解が深まったこと、また(3)長期的に継続して研究を行ったことにより研究参加者の教師コミュニティにおける役割の変化が確認できたこと、などが学術的意義である。個々の大学における英語教員養成を複数の大学を一つの共同体として捉え、協働による教師の学びのモデルを提示したことに社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this study, we used reflection as a tool to perform a qualitative study to clarify the English teachers' professional development process. It was discovered as a result that for students in the teacher training course to gain a new knowledge of educational practice, it is crucial that they have peers with whom they can confide in and share issues, as well as others who have lived through experiences that are different from their own. Long-term participation in a reflective community also enables the experience of multiple roles and positions, which is the reason for subsequent growth as an English teacher, in addition to the fact that practical experience, such as teaching practice, is a major influencing factor.

研究分野：教師教育

キーワード：振り返り 教師の成長 教師の専門性 質的研究 英語教師

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

教師教育の研究分野では教師の成長のツールとして「振り返り」が昨今注目されており、それは2017年に提示された大学教職課程英語科に関するコア・カリキュラムでも、指導すべき英語力や専門性の内容の一環として「振り返り」が言及されていることから明らかである。また、「振り返り」のモデルの一例としてよく挙げられるPDCAサイクルには「振り返り」において不可欠である教師が自己をメタ認知的に理解するという段階が含まれていないという問題がある。

### 2. 研究の目的

本研究では振り返りをツールとした中等教育における英語教師の成長の新たなフレームワークを構築し、PDCAサイクルを超えた英語教員養成のモデルを提唱することを主目的とする。また同じ地域の二大学における中等英語教員養成課程を問題共有する一つの共同体と捉え、教職課程履修者及び教師教育者をその共同体の一員とみなし、英語教師の振り返りの過程の探求を行い、振り返りを通して成長し続ける英語教師のためのフレームワークの構築を目指す。

### 3. 研究の方法

本研究は主として質的研究手法によって行われた。本研究で明らかにしようとしたのは具体的に次の3点である：

- (1) 教員養成課程における「振り返り」とはどういう過程か。
- (2) 教員養成課程において省察力はどのように育成されるのか。
- (3) 教職課程履修者はどのようにオンラインコミュニティ形成に貢献するのか。

初年度は2大学において英語科教科教育法を履修している3年次学生及び教育実習を控えている4年次学生から参加者を募った。計9名の参加者は学年や大学を超えた共同体を形成し、英語科教育と教師としての成長に関してオンラインジャーナル記述(2学期間)とお互いへのフィードバック、各学期末の参加者との1体1の半構造的インタビュー(計2回)及び複数の参加者によるフォーカスグループディスカッション(計3回)を行った。この1年目の取り組みはパイロットスタディとして位置付けられ、共同体を構築するまでの過程や振り返りの際に見られた問題点などを考慮し、データ収集方法を再検討した上で2年目の主研究を行なった。

2年目は初年度のパイロットスタディの結果に基づき、教職課程履修者の振り返りの過程のさらなる探求とオンラインコミュニティの構築の過程の探求を主目的として研究調査を行った。新たな参加者5名は2大学において英語科教科教育法を履修している3年次学生から募り、初年度に研究参加した4年次学生3名も継続して参加した。計8名の参加者は学年や大学を超えたオンライン共同体を形成し、英語科教育と教師としての成長についてオンラインジャーナル記述(2学期間)、半構造的インタビュー(計1回)、およびフォーカスグループディスカッション(計3回)を行った。また教師教育者自身もデータの解釈と自らの教師教育者としての振り返りの共有のため勉強会を行った。

2年間のデータ収集で得られたデータを分析し、得られた知見を国内外における学会、及び学会誌論文にて発表した。

#### 4. 研究成果

初年度は教職課程履修生が何に気づき、お互いからどのように学び、どのような新たな意味や解釈を引き出すのか、またそのことによって自分と自分の教育実践について理解を深めるのか、そのやり取りのプロセスと特徴について計量分析を試みた。その結果、教職課程履修生にとって、自分を支援し問題共有できる仲間や自分とは異なる経験をもつ他者の存在が重要であること、さらにグループ内における自分の役割の変化や教職に就くことに対する認識の変化を通して、自分の教育実践の新たな理解を獲得するということが明らかになった。2年目のデータからは、教職課程履修者も経験を積むことで自分の実践やコミュニティでの言動により責任を持つことを学び、オンラインコミュニティが志を同じくする個人が教育について安心して話し合い、教師としての専門性を成長させるための場となったことが明らかになった。

2年間にわたって行った英語教師を目指す教職課程履修者の教師としての成長の振り返りの過程と、学年や大学を超えた振り返りの共同体の形成過程の探究の調査の質的データ分析の結果、次の3点が最終的に明らかとなった：(1) 教職課程履修者は教員養成課程において自らの成長を振り返る際に「他者」（この研究の場合はピアであり、学年が異なることでメンターでもある他の教職課程履修者を指す）の存在が重要である。(2) オンラインジャーナルやフォーカスグループディスカッションにおけるやり取りやフィードバックにはお互いが成長するための様々な機能がある（例として共感、気づきなど）。(3) 学年や大学を超えて形成した共同体は、教師としての自らの成長を振り返り、それを言語化する場、また新しい視点を得てさらに教師としての専門性を向上させる動機付けの場として意味がある。

最終年度にはより長期的な視点から個々の教職課程履修者の成長に着目した事例研究を行い、2年間プロジェクトに継続参加し、大学卒業後に実際に中等教育における英語教師になった研究協力者3名にフォローアップインタビューを行うことができたため、より長期的な視点から教師の成長を捉え分析することが可能となった。その結果として、教育実習などの実践的経験が大きな影響要因であることに加えて、振り返りの共同体への長期的参加が複数の役割や立場の経験を可能にし、そのことがその後の英語教師としての成長にも大きく影響し得るという知見を得ることができた。

さらに、今回オンラインジャーナルというデータ収集方法を用いることで、時間や場所にとられない振り返りの場を構築することが可能であることがわかった。また教職課程履修者の実践や省察を通して得られた知見から、今後は一つの大学の教職課程を超えて地域における中等英語教員養成のための共同体のフレームワークを策定し、その共同体の維持と発展をどのように行うかが新たな課題であることが確認できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Chitose Asaoka	4. 巻 11
2. 論文標題 A Case Study of a Pre-service Teacher's Professional Development in a Supportive Collaborative Community of Practice	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Dokkyo Journal of Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chitose Asaoka, Atsuko Watanabe	4. 巻 10
2. 論文標題 Building an Online Collaborative Learning Community of Pre-service Teachers of EFL	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Universal Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 541-552
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13189/ujer.2022.101001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 浅岡千利世、臼井芳子、秋山朝康、渡辺敦子	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 英語科教職課程履修生の共同体における協働的振り返り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語教師教育	6. 最初と最後の頁 62-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Chitose Asaoka, Atsuko Watanabe
2. 発表標題 Understanding the trajectory of pre-service EFL teachers' professional development in a community of practice
3. 学会等名 World Congress of Applied Linguistics（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅岡千利世
2. 発表標題 英語教師の学びの過程と協働的振り返り
3. 学会等名 JACET関東支部月例研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chitose Asaoka, Atsuko Watanabe, Yoshiko Usui
2. 発表標題 Building a collaborative community of pre-service EFL teachers to facilitate their professional development
3. 学会等名 大学英語教育学会第58回国際大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chitose Asaoka, Yoshiko Usui
2. 発表標題 The effects of joining a collaborative community of practice on the professional development of EFL student teachers in Japan
3. 学会等名 Association of Teacher Education in Europe（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秋山 朝康  (Akiyama Tomoyasu)  (20383218)	文教大学・文学部・教授    (32408)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	臼井 芳子  (Usui Yoshiko)  (40296794)	獨協大学・国際教養学部・教授    (32406)	
研究分担者	渡辺 敦子  (Watanabe Atsuko)  (70296797)	文教大学・文学部・教授    (32408)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関